横浜ユーラシア文化館　企画展　Special Exhibition

横浜中華街
160年の軌跡
この街が、ふるさとだから。

Yokohama Chinatown, 160 years history

2021年4月10日（土）～7月4日（日）
Saturday 10 April to Sunday 4 July 2021

会　場　3階企画展示室ほか
Thematic Exhibition Gallery
観覧料　一般300円　小・中学生、横浜市内在住65歳以上150円
Admission : ¥300 for adults
¥150 for primary and junior high school students,
and city residents 65 years old and above

横浜中華青年会獅子隊の旗　1960年代
横浜中華青年会寄贈・横浜開港資料館所蔵

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
Tel. 045-663-2424　Fax. 045-663-2453

12 Nihon Odori, Naka-ku, Yokohama, Japan 231-0021
Tel. 045-663-2424　Fax. 045-663-2453

開館時間　9:30 a.m.～5:00 p.m.（券売は4:30 p.m.まで）

休 館 日　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は次の平日）
5月3日（月・祝）は開館、5月6日（木）は閉館。年末年始（12月28日～1月3日）
4月8日（木）、9日（金）は展示替のために2階常設展示室は休室します。

観 覧 料　一般200円
小・中学生、横浜市内在住65歳以上の方100円
特別展・企画展の観覧料は別途定めます。
毎週土曜日は、小・中学生、高校生は無料です。
「身体障害者手帳」、「愛の手帳（療育手帳）」、「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に手帳をご提示ください。

Hours　9:30 a.m.-5:00 p.m.
(Admission until 4:30 p.m.)

Closed　Mondays (except Holidays) and year-end/New Year's recess (28 December 2021 to 3 January 2022) , 6 May, and 8-9 April 2021.

Admission　¥200 for adults
¥100 for primary and Junior high school students,
and city residents 65 years old and above

観覧券がオンラインで購入できます。購入・詳細は当館ホームページをご覧下さい。

みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口すぐ
ＪＲ「関内駅」南口・市営地下鉄「関内駅」
1番出口から徒歩約10分

Zero min. walk from Nihon Odori Sta.
on the Minato Mirai Line.
10 min. walk from Kannai Sta.
on the JR Line or Municipal Subway.

http://www.eurasia.city.yokohama.jp/

News from EurAsia No. 35　横浜ユーラシア文化館ニュース　第35号　2021年3月31日
企画・編集／横浜ユーラシア文化館　発行／（公財）横浜市ふるさと歴史財団　題字ロゴ／有限会社ボイドシステム
印刷製本／株式会社佐藤印刷所

禁無断転載　©2021 Yokohama Museum of EurAsian Cultures

News from EurAsia
横浜ユーラシア文化館ニュース

No. 35

アートウォッチング
Art Watching　2

安楽園と大徳堂
Anrakuen and Daitokudo

蔵品紹介 ー常設展示室からー
The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition　6

ラスター彩人物文星形タイル
Luster Star-Shaped Tile with a Seated Human Figure

2021年秋　特別展　8

北の海の狩人
—古代オホーツク文化（仮称）
Hunters of the Northern Sea:
Ancient Okhotsk culture (Provisional title)

蔵品紹介 ー新収蔵資料ー
The YMEAC Collection: Recent Additions　10

催し物案内
Exhibitions and Events　11

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

Anrakuen and Daitokudo

安楽園と大徳堂

伊藤泉美　ITO Izumi

横浜中華街では2000年代に入ると戦前からこの街に住んでいた老華僑や日本人の店が姿を消していき、入れ替わるように、1970年代後半から来日した新華僑が相次いで店をオープンした。こうした中で、長年中華街で営業を続けてきた二つの老舗が看板を下ろした。一つは中華料理店の安楽園で、2011年に87年の歴史に幕を閉じた。もう一つは漢方薬局の大徳堂で、2013年に百年以上続いた店を閉じた。閉店後、両店のさまざまな資料が横浜開港資料館に寄贈された。今回の企画展ではそれらの資料を展示し、二つの老舗の歴史を伝えたい。

図１　羅家の人びと　1935年頃　横浜市史資料室所蔵前川浄二家資料
Fig. 1 The Luo Family in their Chinese restaurant, Anrakuen, around 1935.
Courtesy of City of Yokohama Municipal Archives Reference Room, donated by Maekawa Joji

図２　安楽園で使われていた円卓・食器類・屏風　安楽富美氏寄贈・横浜開港資料館所蔵
食器類は中華と和風双方のデザインのものがある。徳利は双喜や龍に鳳凰などの中華風のものは老酒用、瓢箪や幾何学模様など和風のものは日本酒用。円卓の直径 144 cm
Fig. 2 A round table, tableware, and a folding screen used in Anrakuen.
Courtesy of Yokohama Archives of History, donated by Anraku Fumi.　D. 144 cm (table)

安楽園を営んだ安楽家の横浜での足跡は1870年代まで遡る。創業者の羅佐臣は1862年に広東省高明県に生まれ、1878年に貿易商東同泰を営んでいた兄を頼って横浜の地を訪れた。その後1903年に独立し、山下町145番地に海産物や雑貨の輸出を手がける恭安泰を興した。それから20年後、1923年9月1日の関東大震災で店は瓦解する。

羅佐臣はすでに還暦を過ぎた身ではあったが、思い切って貿易商から料理店へと業種転換し、1924年に「安楽園」をオープンした。店は軌道にのり、木造から鉄筋コンクリート造２階建てに建て替えた。ちょうどその頃、中華街大

図３　宴会の際、慶事には「寿」、仏事には「佛」の鎌倉彫が飾られた。横幅 27.5 cm
Fig. 3 Kamakura-Bori carved lacquerware used in Anrakuen.
Courtesy of Yokohama Archives of History, donated by Anraku Fumi.　W. 27.5 cm

通りに中華風で地震に強い建物を建て、横浜の観光の目玉にしようという動きがあった。

その店の応接間で撮影された一家の写真が残っている（図１）。右から３人目の中国服をきた男性が羅佐臣で、手を添えている孫娘の富美さんは今も横浜本牧にご健在だ。左から３人目の和服の女性が渡邊蝶で、羅佐臣は彼女と横浜での家庭を築いた。1935年頃の撮影である。左奥に見える「人生七十古来稀」の書は1932年に古希を迎えた羅佐臣に贈られたものだろうか。左端の白い背広姿が左臣と蝶の長男孝明で、1936年に羅佐臣が他界すると、孝明が安楽園を継ぎ、戦時下の苦しい時代を過ごした。

1945年５月29日の横浜大空襲で店と住まいは焼失するが、一家は箱根に避難しており無事だった。戦後は横浜に戻り、安楽園を復活させた。1973年、羅家は日本国籍を取得するが、その際、店の名前をとって苗字を「安楽」とした。現在、安楽園の跡地には大型土産物店の横浜博覧館が立っているが、羅家の子孫は今も横浜やアメリカなど各地に暮らしている。

もう一つの老舗、大徳堂は、幕末の慶応3年、1867年の創業といわれる。漢方薬の販売だけでなく、薬種・砂糖・革類・鉄などを輸入し、海産物・茶などを輸出する貿易商でもあった。1872年に横浜中華会館が出した『夜半鐘音』にも大徳堂の名前が見られ、『横浜貿易捷径』（1893年）によれば、大徳堂の経営者は何瓞生である。関東大震災後も復活し、『横浜市商工案内』（1937年）では、経営者は何秉堯で「漢方薬種卸小売」とあり、この段階までは何家が大徳堂を営んでいた。

太平洋戦争が勃発した1941年頃、それまで大徳堂に勤めていた梁観光が店を引き継ぐことになった。梁観光は広東省高明県の出身で、1923年、関東大震災まもなくの横浜にやってきた。同郷の安楽園主人羅佐臣の紹介で、大徳堂に就職した。1945年５月の大空襲で店は焼けてしまったが、８月頃にはトタン小屋を建てて住み、翌年には店を再開した。1954年頃に梁観光の息子の伏見志雄が引き継いだが、その頃は店の顧客のほとんどが華僑であったという。志雄の後は息子の東峰が継いだが、漢方の生薬を買いに来る客は徐々に減っていった。

安楽園の羅佐臣と大徳堂の梁観光は、それぞれ広東省高明県から明治期と大正期に横浜にやってきた。彼らが横浜で過ごした時代には、災害や戦争もあり、日中関係も厳しい時代であった。そうした苦難を乗り越えていった一人一人の営みが、戦後の横浜中華街の礎となった。

図4　大徳堂で使われていた薬研（やげん）　横幅 40 cm
伏見東峰氏寄贈・横浜開港資料館所蔵
薬研は鉄製の輪についた持ち手を回し、薬草を粉砕する道具。
Fig. 4 Chinese traditional tool for cutting herbs used in Daitokudo. W. 40 cm
Courtesy of Yokohama Archives of History, donated by Fushimi Touhou.

ART WATCHING

図5
生薬の説明をする伏見志雄氏
大徳堂にて
2005年８月　撮影：伊藤泉美
この頃は霊芝や亀板（こうばん）など800種類あまりの生薬を扱っていた。
Fig. 5 Fushimi Siyu in his shop, Daitokudo in Aug. 2005.
Photo by ITO Izumi.

Two famous shops in Yokohama Chinatown with almost a century of history closed in the early 2010s: Anrakuen, a Chinese restaurant, and Daitokudo, a Chinese druggist. Anrakuen was founded by Luo Zuochen, who was born in Gaoming, Guandong, China in 1862. When he was around the age of 16, he came to Yokohama and started to work at a trading company of his elder brother. In 1903, he established his own trading company, Gong An Tai in Chinatown. Twenty years later, the Great Kanto Earthquake hit Yokohama and destroyed Luo's company and his house. However, he challenged to start a new business, the Chinese restaurant Anrakuen in 1924, the next year of the earthquake.

Figure 1 is a photograph of Luo family taken in Anrakuen around 1935. The third person from the right is Luo Zuochen, and the woman wearing kimono is Luo's Japanese wife, Watanabe Cho. Their son, Luo Xiaoming, sitting on the left end, succeeded in this restaurant after his father passed away.

Daitokudo was a famous Chinese druggist and trading company, said to be established in 1867. Liang Guanguang came to Yokohama from Gaoming in Guandong, China, just after the Great Kanto earthquake in 1923. Luo Zuochen introduced him to work at this shop. Both Luo and Liang came from the same prefecture in Guandong and Luo was taking care of people who came from his home town. Liang Guanguang succeeded Daitokudo in 1941.

On 29th May of 1945, the central part of the city of Yokohama was heavily destroyed by the air attack of the US Air force. Anrakuen and Daitokudo were burnt to ash. Liang Guanguang and Luo Kaoming did not give up, however, and they revived their shops on the burnt ground. Their shops continued until the early 2010s since then. When these shops were closed, the Luo family and the Liang family both donated various items concerning their shops to the Yokohama Archives of History. We are so happy to exhibit these items and introduce their history at our special exhibition.

ラスター彩人物文星形タイル

Luster Star-Shaped Tile with a Seated Human Figure

竹田多麻子　TAKEDA Tamako

イラン　12〜13世紀
長 12.0 cm　幅 12.0 cm
Iran 12th-13th century C. E.
H. 12.0 cm　W. 12.0 cm

裏面　Reverse

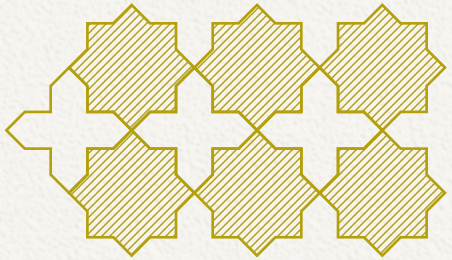

図1　Fig.1

タイルといえば四角い形と思う方が多いかもしれませんが、イスラーム建築では四角だけでなく様々な形のタイルが用いられ、特に12〜14世紀のイランやアナトリアの建築物の内部壁面はそのようなタイルを組み合わせて飾られました。例えば、八芒星は十字形（図1）と、六芒星は六角形と組み合わせます。

今回紹介するこのタイルは、八つの角をもつ八芒星です。

タイルの表面は釉薬がかかり、単色の絵付けがされていますが、これはイスラーム陶器の一つであるラスター彩陶器で使われる技法が用いられています。釉薬を施して表面を白くした後に金属を含む顔料を用いて絵付けをし、酸素の供給が少ない環境で焼き上げました。今の絵付けの色はくすんだ薄茶色をしていますが、完成したばかりのタイルは金属のように光り輝いていたことでしょう。裏面は壁面に張るので釉薬がかかっていません。

星の中に描かれている人物は、丸い顔につながった眉毛、半円形の目、小さな口をした少し眠そうな愛らしい表情をしています。そして、おかっぱ頭に帽子のようなものを被り、ゆったりとした水玉模様の白い服を着て座っています。よく見ると、左手に何か丸いものを持っているように見えます。人物の背景には蔓草が描かれ、それ以外は塗りつぶされています。塗りつぶしの表現が、この人物をより際立つように見せていますが、人物が何をしている姿なのかはよくわかっていません。

このような人間が描かれたタイルは、モスクなどの宗教的な建物ではなく、宮殿など世俗的な建物に使われたと考えられています。

One would imagine the shape of tiles to be square; however, in the Islamic world, shapes such as stars and crosses were also extensively used. Tiles have been a major element of Islamic architecture since the 9th century. I in Iran and Anatolia from the 12th to the 14th century, the walls inside the buildings were decorated with combinations of various shapes and sizes of tiles; for example, eight pointed star with crosses (fig. 1) and six-pointed with hexagons.

This tile in the main picture is an eight-pointed star shape decorated with over-glaze-luster painting. The surface is covered with glaze and painted, with no glaze on the back. In the center of the tile, the seated human figure has a round face, sleepy eyes, and a small mouth. He is wearing a long flowing garment with dots, a tight cap, and holding something in his left hand. The background has a vine pattern. At this time, it is not known what the figure is doing.

It is evident that such tiles showing human figures were used in secular rather than religious buildings.

2021年秋　特別展

北の海の狩人―古代オホーツク文化（仮称）

Hunters of the Northern Sea: Ancient Okhotsk culture (Provisional title)

「オホーツク文化」という名前を聞いたことがあるでしょうか？　オホーツク文化とは、北海道の東北部のオホーツク海沿岸を中心に、サハリン南部から千島列島にかけての地域に、5世紀から9世紀頃に広がった古代文化のことを指します。本州でいえばおよそ古墳時代から平安時代に相当し、北方からやって来た大陸系の文化だと考えられています。オホーツク文化の人々は、アザラシやオットセイなどの海獣狩猟と漁撈を生活の基盤としており、竪穴住居の奥にクマの頭を積み上げた祭壇を築くなど、独特の儀礼を行っていたことが分かっています。

東京大学文学部考古学研究室は、1950年代から長年にわたって、北海道常呂町（現北見市）にある北海文化研究常呂実習施設を拠点に、オホーツク文化の遺跡を数多く発掘調査してきました。この展示では、最新の研究成果に基づいて、謎に包まれたオホーツク文化の姿を描き出します。日本列島とユーラシア大陸との「北回り」の交流を通じて、日本列島に展開した多様な文化の一端を感じていただければ幸いです。

（高橋　健）

クマ骨偶 ▲
トコロチャシ跡遺跡1号竪穴出土。
オホーツク文化の遺跡からは、動物を表現した遺物が多く出土するが、クマをモチーフにした例は特に多い。

オホーツク文化の骨塚
トコロチャシ跡遺跡7号竪穴の骨塚。
竪穴住居の奥壁側に、クマの頭骨を積み上げて作られた祭壇である。この骨塚には100頭以上分のクマの頭骨があった。

◀ オホーツク土器
トコロチャシ跡遺跡出土。
直線や波状の細い粘土紐を器面に貼り付けている。

オホーツク文化の銛頭 ▶
中央1点：栄浦第二遺跡出土。
他6点：トコロチャシ跡遺跡出土。
海獣や大型魚を対象として用いられた。オホーツク文化では、海獣骨や鹿角を材料に多様な形態の銛頭が作られた。

◀ 青銅製帯飾
栄浦第二遺跡出土。
アムール河流域に分布していた靺鞨系の遺物であり、大陸との交流を示す重要な資料である。

※写真は全て、東京大学常呂実習施設提供

会期（予定）：2021年10月16日（土）～12月26日（日）

The YMEAC Collection: Recent Additions [October 2020 to March 2021]

蔵品紹介 ー新収蔵資料ー

2020年10月から2021年3月までにご寄贈頂きました資料をご紹介します。ご寄贈いただきましたみなさま、ご寄贈いただくに当たりご協力を賜りましたみなさまに篤く御礼申し上げます。（敬称略）

収蔵番号	YMEAC-20-0133〜0138

アフガニスタンのガラス製品など

点　数　6点
地　域　アフガニスタンほか
寄贈者　小倉洋子

ガラス製品
アフガニスタン　1970年代
Glassware
Afganistan 1970s
Donated by OGURA Yoko

織物
ブータン　20世紀
Textiles
Bhutan 20th century
Donated by OGURA Yoko

ご来館者のみなさまへ

新型コロナウイルス感染症予防のため、展示会期、開館日、開館時間等を変更する場合があります。最新の情報はホームページ、お電話等でご確認ください。

観覧券がオンラインで購入できます！

展示観覧券を事前に購入される方は、当館ホームページよりオンラインチケットサービスをご利用ください。混雑時は事前購入された方が優先入場となります。

◀ 横浜ユーラシア文化館
オンラインチケットサービス

催し物案内 Exhibitions & Events

企画展 3F

横浜ユーラシア文化館　企画展

横浜中華街・160年の軌跡　この街が、ふるさとだから。

Yokohama Chinatown, 160 years history

2021年4月10日（土）〜7月4日（日）
Saturday 10 April to Sunday 4 July 2021

中華街大通り
1930年代半ば〜1940年代前半
横浜開港資料館所蔵

横浜は巨大な移民都市です。幕末から現在までの約160年の間に、小さな村から人口370万を擁する大都市に急成長しました。それは、国内外の様々な土地から人びとが移り住み、多様な文化を育んできた過程とも言えます。

横浜中華街と言えば、料理店がたち並ぶ観光地をイメージしがちですが、この街には長い歴史があり、ここをふるさとと思う人びとがいます。また中華街は中国系の人だけではなく、日本の各地などから移り住んだ人びとが暮らす場所でもあります。民族や国籍を超えて、この街をふるさととして愛する多様な人びとがいること。それが国際都市横浜の証であり、中華街はその象徴です。

本企画展では、幕末の誕生から震災と戦災を乗り越え、戦後に飛躍を遂げた横浜中華街の軌跡と、暮らしを支える職業、そして2021年の現在、コロナ禍と闘う中華街の姿を紹介します。きっと、あなたの知らない、中華街に出会えます。

会　　場　3階企画展示室ほか
Thematic Exhibition Gallery

観 覧 料　一般300円
小・中学生、横浜市内在住65歳以上の方150円
Admission ¥300 for adults
¥150 for primary and Junior high school students, and city residents 65 years old and above

関連展示

写真展
「ふるさと、横浜中華街に生きる」

撮影：横山和江

日　時　2021年4月10日（土）〜7月4日（日）
会　場　1階ギャラリー
観覧料　無料